

第 42 回原子力安全専門委員会定例会  
(結果概要)

原子力安全対策課

日 時：平成26年 1 月 8 日 (木) 15時00分～17時00分

場 所：福井県庁10階 1002会議室

出席者：

専門委員：中川委員長、三島委員、田島委員、飯井委員、西本委員、  
泉委員、大堀委員、田岡委員

県：(原子力環境監視センター) 田賀所長、高橋研究員  
(原子力安全対策課) 岩永企画幹、野路課長、伊藤参事 他

議 題：

1. 原子力発電所周辺の環境放射能調査報告について  
平成 26 年度 (第 2 四半期分報告)
- 2 発電所の運転および建設状況について  
(平成 26 年 10 月～平成 26 年 11 月)

結果概要：

議題 1 (原子力発電所周辺の環境放射能調査報告) については、特にコメントはなかったおよび議題 2 (発電所の運転および建設状況) について次のような質疑があった。資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配付予定である。

<事務局説明概要(原子力発電所周辺の環境放射能調査報告)>

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定結果についてはいずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 福島第一原子力発電所事故や核実験フォールアウト等の影響によるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。
- ・ 大気中水分、雨水および海水から発電所の通常の放射性廃棄物管理放出に伴うトリチウムが検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

<事務局説明概要(発電所の運転および建設状況)>

- ・ 県内発電所における平成 26 年の暦年の稼働実績および、最近発生した異常事象(敦賀発電所 2 号機 洗濯廃液モニタタンクの漏れ跡) について事務局より説明。

<主な質疑>

Q. 敦賀発電所2号機の洗たく廃液モニタタンクの漏れ跡に関して、対策としてタンク内面の溶接部に防食塗装を行うとのことだが、塗装の境界部などで同じような事象が発生する可能性がある。恒久的な対策としては廃液中の塩素濃度を下げることや材料を耐食性に優れたものに取り替えることなどがあり、これらについて検討する必要があるのではないか。

A. ご指摘の通り、防食塗装自体は、タンク内の水の塩素濃度を下げるものではなく、腐食の発生要因そのものがなくなったわけではない。事業者に対しては、将来的に塩素濃度を下げするための対策を検討するよう求めているところである。

以上